原　著

中高年有配偶者の性における男女差の変遷
—中高年のセクシュアリティ調査から

日本性科学会カウンセリング室[1)]　田園調布学園大学[2)]
すぎやまレディスクリニック[3)]　コラボレーション実践研究所[4)]
お茶の水女子大学[5)]　聖隷浜松病院[6)]　キラメキテラスヘルスケアホスピタル[7)]
国立精神・神経医療研究センター[8)]　元主婦会館クリニック[9)]
女性医療クリニックLUNA横浜元町[10)]

金子和子[1)]，荒木乳根子[2)]，杉山　正子[3)]，山中　京子[4)]
石丸径一郎[5)]，今井　伸[6)]，内田　洋介[7)]，遠藤麻貴子[8)]
堀口　貞夫[9)]，堀口　雅子[9)]，村田佳菜子[10)]

Gender Difference Trend on Middle Aged and Elderly's sexuality –Based on Survey on Sexuality of Middle-Aged and Older Adults

Japan Society of Sexual Science Counseling Office[1)]
Den-en Chofu University[2)]　Sugiyama Ladies' Clinic[3)]
Institute of Collaborative Practice[4)]　Ochanomizu University[5)]
Seirei Hamamatsu General Hospital[6)]　Kirameki Terrace Healthcare Hospital[7)]
National Center of Neurology and Psychiatry[8)]　Former-Shufukaikan Clinic[9)]
Women's Clinic LUNA Yokohama Motomachi[10)]

KANEKO Kazuko[1)], ARAKI Chineko[2)], SUGIYAMA Masako[3)]
YAMANAKA Kyoko[4)], ISHIMARU Keiichiro[5)], IMAI Shin[6)]UCHIDA Yosuke[7)]
ENDO Makiko[8)], HORIGUCHI Sadao[9)]
HORIGUCHI Masako[9)], MURATA Kanako[10)]

抄　録

中高年のセクシュアリティ研究会では2000年以降10年ごとに，40代から70代（2022年は80代）の単身者と有配偶者にセクシュアリティに関するアンケート調査を行っている。2022年は3度目の調査である。その中から，男女の差が大きい①「気乗りしない性交渉に応じるか」②「性的感情や欲

求を伝えあうか」③「求めるパートナーとの望ましい関係はどのようなものか」を有配偶者に的を絞って，3調査を比較検討しこの20年の変化を探る。その結果①「気乗りしない性交渉に応じるかどうか」では，女性ではそうした場面がないとする人が増え，世代による差が目立った。男性では，元々気乗りしない性交渉に応じる人が少なく，変化は見られなかった。②性的感情を伝えあわない人たちが増え，男女間の差とくいちがいが目立った。③「性交渉を伴う愛情関係」を求めるのは男性が高く，その率は男女ともに下がったが，男女の差は縮まらなかった。

Abstract

Middle Aged and Elderly Sexuality Study Group conducts sexuality survey every 10 years since 2000. Respondents are with/without spouse between 40s and 70s (2022 survey includes 80s.) The third survey was in 2022. To see the change in the past 20 years, comparison was made on 3 items with big gender difference on respondents with spouse. 3 items are ① do you respond to sex reluctantly ② do you communicate sexual feelings or desire and ③ preferable relationship with partner. In findings of 2022 survey. ① Women do less so recently with big generation gap. Men originally do not have reluctant sex, showing no change. ② Recent people have less communication on sexual feelings, showing obvious gender difference. ③ Men tend to prefer love relationship with sex. Comparing with past, less people need sexual activity in both gender, but the gender difference was not narrowed.

Keywords

Gender difference, Reluctant sex, Communication

緒　言

性意識や男女の関係は社会の変化とともに大きく変わるものであり，筆者は性に関するカウンセリングに長年たずさわりそれを実感している。2000年前後で来所する患者の様々な様相（来所の男女の比，主訴，等）が変わり，最近の10年ほどでまた変わりつつあると見受けられる。例えば2000年前後では，セックスレスを主訴として来所する場合，男性が拒否してセックスレスになっているのを女性が問題視して，女性一人で来所するケースが多かった。しかし，次第に女性が原因となっている例が増え，現在ではカップルでの来所が増えている[1)]。性がどちらかだけの問題ではなく，男女双方の問題となってきたのであろうか。一方男女の差は依然として大きいとも考えられる。どのような面で男女の違いが大きいか，それらはどのように変わってきているか，変わっていないか等を知ることは，性を扱うものにとって重要なことと思われる。性的な事柄を論じる時，少なくとも，性別，年代，その時代の3つの要素を意識して，立体的に把握することが肝要であろう。そこで，日本性科学会セクシュアリティ研究会が2000年以来10年ごとにおこなっている「中高年のセクシュアリティに関するアンケート調査」のうち，男女の差が大きい①「気乗りしない性交渉に応じる

か」②「性的感情や欲求を伝えあうか」③「求めるパートナーとの望ましい性的関係はどのようなものか」を有配偶者に的を絞って，比較検討する。

方　法

・調査はアスマーク株式会社によるWeb調査で，2022年2月10〜17日に実施した。47都道府県在住のモニターを対象とし，対象者数は表1の通りである。なお，2000年と2012年の調査は紙調査用紙への記入方法である。

表１　年代別対象者数　　　人数（%）

	有配偶者		単身者	
	女性	男性	女性	男性
40代	150(20.9)	150(19.2)	150(19.2)	150(20.3)
50代	150(20.9)	150(19.2)	150(19.2)	150(20.3)
60代	150(20.9)	150(19.2)	150(19.2)	150(20.3)
70代	163(22.7)	163(20.8)	163(20.8)	163(22.1)
80代	105(14.6)	170(21.7)	170(21.7)	126(17.1)
合計	718(100)	783(100)	783(100)	739(100)

・調査内容

調査内容は基本的属性，性についての考え方，性的欲求と性生活，性機能，配偶者間の関係性，単身者の交際相手との関係性，健康状態と多岐にわたり，79問，副次的質問も入れると81問に及ぶ。3回の調査はほとんど同じ質問項目であるが，今回使用した「望ましい性的愛情関係」については若干の変更があるので，結果の欄で説明した。

・調査は単身者と有配偶者の双方に行っているが，本論文では，有配偶者のみを使用。

・分析方法

統計解析にはIBM®SPSS®Statistics Version13.0 for Microsoft Windowsを使用した。男女別の年代別合計および配偶関係別合計の比率には2020年国勢調査データをもとに算出した人口構成比による重み付けを行った[2)]。

・倫理的配慮

日本性科学会研究倫理審査委員会に申請し，承認された。2022年2月10日課題番号第2022-001号

・利益相反COI

この調査はジェクス株式会社の援助によって行われた。

結　果

これまでに公表した2012年の調査（以後2012年と表記）結果の数字は小数点以下が四捨五入されているが，今回は他のデーターとの統一性を考慮して小数点一位までを記載している。また，オンライン調査のため，「無回答」がない。なお，有意差に関してはＰ値が0.01以下を1%，0.05以下を5%，0.10以下を10%と表記した。表2，3，4では，有意差があるものはグレーでしめした。

1.「気乗りしない性交渉に応じることがありますか」に関して（表2）

（1）気乗りしない性交渉に応じる人の比率は男女で差が明確にみられる。「ない」「たまにある」「時々ある」「よくある」それぞれの項目で有意に男女間に差 があり，男性のほうが気乗りしない性交渉に応じる頻度は少ない。どの年の調査でも男性（「全体」）の半数以上が「ない」と答えているが，女性では，「ない」が増えた2022年調査（以後2022年と表記）でさえ男性のほぼ半数である。2000年調査（以後2000年と表記），2012年ではほぼ1/3である。逆に「よくある」は，女性が男性の5倍以上を示している。

（2）女性全体の気乗りしない性交渉に応じる頻度の3調査での変化を見ると，「ない」と答えた人は2000年と2022年間では有意に増加している。

（3）女性で「よくある」と答えた人は3調査で差は見られない。

（4）男性の3調査での変化は特にみられない。

（5）女性の気乗りしない性交渉に応じる年代別の頻度は表2の通りである。「ない」人たちを2000年と2022年で比較すると，明らかに，2000年は年代を追うごとに，減少しており，2022年では増加している。図1

（6）80代は，2022年に初めて調査したのだが，「よくある」人はおらず，他の年代とは大きく異なっている。

2.「性的感情や欲求を伝えあったり話し合いますか」に関して（表3）

（1）性的感情や欲求を伝えあうかどうかには男女で大きな差が見られた。「自分だけが伝える」のは男性が多く，2022年では，16.4%だが，女性は，3.8%に過ぎない。この傾向は，2000年でも2012年でも同様である。

（2）伝えあわない人たちは増加している。2000年から2022年の変化を見ると，女性全体で，41.1%から70.5%，男性全体で，37.2から

表2　気乗りしない性交渉に応じることがありますか　%

		2000年					2012年					2022年					
		４０代	５０代	６０代	７０代	全体	４０代	５０代	６０代	７０代	全体	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代	全体
女性	ない	19.9	15.1	13.0	0.0	16.5	12.1	15.7	10.9	15.0	13.1	25.0	25.0	32.3	35.5	42.9	30.2
	まれにある	39.8	38.6	35.2	35.7	38.6	46.2	31.4	21.8	25.0	34.3	42.5	36.4	54.8	29.0	42.9	41.1
	時々ある	25.7	23.5	29.6	35.7	25.6	24.2	18.6	34.5	20.0	24.6	18.8	25.0	3.2	19.4	14.3	16.4
	よくある	9.9	17.5	13.0	21.4	13.6	15.4	27.1	20.0	10.0	19.5	13.8	13.6	9.7	16.1	0.0	12.3
	無回答	4.7	5.4	9.3	7.1	5.6	2.2	7.1	12.7	30.0	8.5						
	合計・人数	191	186	54	14	425	91	70	55	20	236	80	44	31	31	14	200
男性	ない	73.2	60.6	53.9	47.5	60.6	51.4	61.2	54.7	74.4	58.9	49.5	56.0	59.0	69.6	72.5	60.1
	まれにある	14.6	26.3	28.9	22.5	23.2	24.3	12.2	18.9	7.0	16.9	41.0	28.0	32.8	26.8	12.5	30.1
	時々ある	4.9	6.1	9.2	20	8.4	14.9	16.3	11.3	4.7	12.3	7.6	12.0	8.2	3.6	12.5	8.3
	よくある	1.2	0	0	0	0.3	4.1	4.1	3.8	0.0	3.2	1.9	4.0	0.0	0.0	2.5	1.6
	無回答	6.1	7.1	7.9	10	7.4	5.4	6.1	11.3	14.0	8.7						
	合計・人数	82	99	76	40	297	74	49	53	43	219	105	75	61	56	40	337

表3　性的感情や欲求に伝えたりはなしあうことがありますか　%

		2000年					2012年					2022年					
		４０代	５０代	６０代	７０代	全体	４０代	５０代	６０代	７０代	全体	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代	全体
女性	①互いに伝えあう	44.6	36.4	20.0	20.8	35.4	33.6	26.5	12.4	25.7	24.4	28.7	16.7	21.3	16.0	19.0	20.8
	②自分のみ	5.0	3.9	5.0	2.1	4.3	7.0	3.8	0.8	0.0	3.3	8.7	3.3	2.0	1.8	1.9	3.9
	③相手のみ	16.7	13.4	18.0	6.3	14.8	14.1	12.1	14.7	2.9	12.0	9.3	7.3	1.3	3.1	3.8	5.3
	④伝えあわない	30.6	44.2	51.0	54.2	41.1	44.5	56.1	69.8	61.4	57.5	53.3	72.7	75.3	79.1	75.2	70.0
	⑤無回答	3.2	2.2	6.0	16.7	4.3	0.8	1.5	2.3	10.0	2.8						
	人数	222	231	100	48	601	128	132	129	70	459	150	150	150	163	105	718
男性	①互いに伝え合う	42.9	34.7	34.8	20.0	33.2	33.0	17.5	16.3	22.0	22.5	35.3	21.3	21.3	17.8	17.6	23.3
	②自分のみ	24.2	26.4	21.4	14.7	22.0	17.0	18.6	23.9	15.6	18.6	19.3	15.3	14.0	16.6	17.1	16.4
	③相手のみ	2.2	0.8	4.5	9.5	4.1	5.7	3.1	3.3	2.8	3.7	4.7	5.3	2.7	1.8	1.2	3.4
	④伝え合わない	27.5	36.4	35.7	49.5	37.2	43.4	59.8	53.3	55.0	52.7	40.7	58.0	62.0	63.8	64.1	56.9
	⑤無回答	3.3	1.7	3.6	6.3	3.6	0.9	1.0	3.3	4.6	2.5						
	人数	91	121	112	95	419	106	97	92	109	404	150	150	150	163	170	783
有意差 女性×男性	①	なし	なし	1%	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	②	1%	1%	1%	5%	1%	5%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
	③	1%	1%	1%	なし	1%	5%	5%	1%	なし	1%	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	④	なし	なし	1%	なし	なし	なし	なし	1%	なし	なし	5%	1%	5%	1%	10%	5%
	②女性×③男性	なし	10%	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	③女性×②男性	なし	1%	なし	なし	1%	なし	なし	10%	1%	1%	5%	5%	1%	1%	1%	1%

57.6%である。

（3）男性の「自分だけ伝える」は，女性の「相手だけ伝える」と同じ数字になると思われるが，実際にはそうなっていない。男性が，「自分だけ伝える」の方が，女性の「相手だけ伝える」より有意に多い。そして，ずれている年代を見ると，2022年は，2000年，2012年より多く，全年代でずれている。

3.「配偶者や交際相手とどのような性的関係が望ましいですか」に関して（表4）

ここで注意すべきは，回答が2000，2012年は「①「性交渉を伴う愛情関係，②性交以外の愛撫を伴う愛情関係，③精神的な愛情やいたわりのみ，④その他」の4択であるが，2022年は「①同，②性交渉以外の性的な触れ合いを伴う愛情関係，③日常的な身体的触れ合いを伴う愛情関係，④精神的ないたわりのみ⑤その他」の5択であることである。これは，日常的な接触を求める人が多いだろうとの議論を経て変更されたものであり，相当数がこの回答を選んでいるので，変更は正しかったとみられる。しかし，そのことが「性交渉を伴う愛情関係」「精神的な愛情やいたわりのみ」にも影響を与えている可能性を考慮に入れなければならない。そこで，ここでは，比較的影響が少ないと予想される「性交渉を伴う愛情関係」を取り上げた。

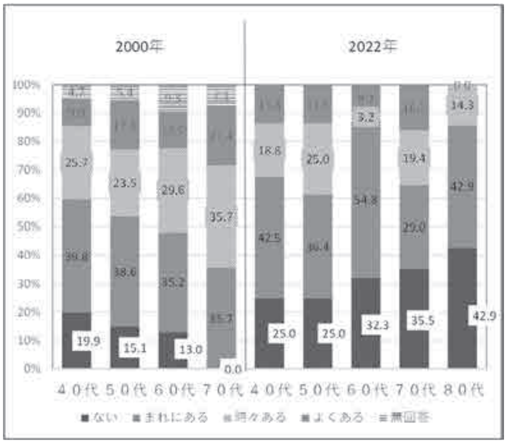

図1　気乗りしないセックス　女性　2000年と2022年

（1）この項目でも，男女には有意な差がみられる。どの年も，どの年代でも男性は女性よりはるかに多く「性交を伴う愛情関係」求めており，2022年の全体では女性の2.5倍になる。逆に言えば女性で「性交を伴う愛情関係」を求める人は男性のそれの39.9%である。

この男女差は2000年，2012年，2022年に共通している。

（2）「性交を伴う愛情関係」を求める人の

表4　どのような性的関係が望ましいですか　　%

		2000年					2012年					2022年					
		４０代	５０代	６０代	７０代	全体	４０代	５０代	６０代	７０代	全体	４０代	５０代	６０代	７０代	８０代	全体
女性	① 性交を伴う愛情関係	49.1	36.8	20.0	10.4	36.4	46.9	22.0	11.6	10.0	24.2	30.0	18.0	16.7	5.5	10.5	17.5
	②性交以外の愛撫を伴う愛情関係	15.8	18.6	23.0	8.3	17.5	7.8	16.7	12.4	10.0	12.0	9.3	10.0	4.7	6.1	3.8	7.3
	③日常的な身体的触れ合い	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	22.0	18.7	14.0	22.1	13.3	18.8
	④精神的のみ	28.8	35.5	45.0	50.0	35.8	35.2	54.5	67.4	62.9	54.0	38.0	50.7	61.3	64.4	72.4	54.4
	⑤その他	0.5	2.6	4.0	4.2	2.2	7.8	3.8	4.7	7.1	5.7	0.7	2.7	3.3	1.8	0.0	2.0
	⑥無回答	5.9	6.5	8.0	27.1	8.2	2.3	3.0	3.9	10.0	4.1	／	／	／	／	／	／
	人数	222	231	100	48	601	128	132	129	70	459	150	150	150	163	105	718
男性	①性交を伴う愛情関係	80.2	62.8	52.7	24.2	55.1	66.0	41.2	46.7	37.6	48.0	56.0	48.0	42.0	36.8	29.4	44.0
	②性交以外の愛撫を伴う愛情関係	6.6	10.7	9.8	25.3	12.9	4.7	12.4	13.0	16.5	11.6	12.7	12.7	10.7	9.2	10.6	11.2
	③日常的な身体的触れ合い	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	18.0	21.3	27.3	22.1	18.2	21.7
	④精神的のみ	8.8	20.7	25.0	35.8	22.7	26.4	42.3	34.8	39.4	35.6	13.3	18.0	20.0	31.9	41.2	23.0
	⑤その他	0.0	1.7	2.7	5.3	2.4	1.9	3.1	3.3	2.8	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.1
	⑥無回答	4.4	4.1	9.8	9.5	6.9	0.9	1.0	2.2	3.7	2.0	／	／	／	／	／	／
	人数	91	121	112	95	419	106	97	92	109	404	150	150	150	163	170	783

・2002.2012年は、①②④⑤の4択。2022年は、①②③④⑤の5択
・ 有意差　女性　全体① 2002 × 2012　5%　2002 × 2022　1%　2012 × 2022　なし　　全体④ 2002 × 2012　1%　2002 × 2022　1%　2012 × 2022　なし
　　　　男性　全体① 2002 × 2012　なし　2002 × 2022　5%　2012 × 2022　なし　　全体④ 2002 × 2012　5%　2002 × 2022　なし　2012 × 2022　1 %

割合は，一番若い40代でも3調査とも男女ともに，低下している。女性では49.1%→46.9%→30.0%，男性では80.2%→66%→56.0%である。つまり40代の女性では，2022年は2000年の61.1%，40代の男性では69.7%に低下しており，ここに男女差は見られない。

（3）この項目は年代による差が大きいが，年代により「性交を伴う愛情関係」を求める割合は低下する。その低下の仕方が男女で異なる。中高年としては一番若く性的には活発と思われる４０代と一番高齢で性的活動が低下していると思われる70代（80代は2022年のみなので）を比較する。女性ではどの年の調査でも，40代を100とすると70代は40代の20%前後であるが，男性では，2000年30.1%，2012年57.0%，2022年65.7%であり，「性交を伴う愛情関係」を求める率の低下は，調査が新しくなるにつれ少なくなっている。

考　察

1．「気乗りしない性交渉に応じることがありますか」に関して

気乗りしない性交渉に応じる人の比率は男女で差が明確にみられる。男性の半数が「ない」と答えているが，女性では，「ない」が増えた2022年でさえ男性のほぼ半数である。2000年，2012年ではほぼ1/3である。逆に「よくある」は，女性が男性の5倍以上を示している。男女差の目立つことは，単に気乗りしない性交渉に応じる割合が，女性で男性より多い，ということだけではなく，女性が，気乗りしない性交渉に応じる率が2022年は2000年，2012年と比べて下がっているに対し，男性ではその傾向がみられないことである。男性はもともと気乗りしない性交渉に応じるという場面が少なく，「ない＋まれにある」をみると，2000年，2012年，2022年で83.8%，75.8%，90.2%であり，変わる必要がなかったということになる。男性は変わる必要がなかったのに対して，気乗りしない性交に応じることがあった女性が変わっていくことは，その方向によっては男性にとっては心地よいものではないこともあると推測できる。

気乗りしない性交渉を男性が女性に強要しているとは限らない。女性が気乗りしていなくなくても「妻の務め」と感じたり，「喜ばせたい」という気持ちもあり[5)]，気乗りしていないことを表出しないまま応じることがあるからだ。女性の中に二つの気持ちすなわち「性交を断りたい」と「受け入れたい」があるから気乗りのしない性交に応じることになるのだ。しかし，そうした経験の積み重ねは，場合によっては性に対して否定的な感覚を与えうる。したがって，「気乗りしない性交渉」がない人が増えたのは，自分の感覚を大事にする，あるいは，断ることに罪悪感を感じないで済む女性が増えたということで，女性の性における自由度が上がったと言える。しかし男性にとっては，は断られることが増えることになっている可能性が大きい。

女性で「気乗りしない性交渉」に応じることが「ない」人は増えたのに「よくある」人が減らない，ということをどのように考えるべきか。気乗りしない性交渉が成立するのは，女性の側の態度も関係するので，二人の関係が断りにくい，断ることを欲しない，諦めている，という関係もありうると考えられる。

気乗りしない性交渉に応じるのが「よくある」人の率が2000年から2022年で下がらなかったのは，性意識，パートナーとの性をめぐる関係が「変化しにくい一群」がいると考えるべきなのかもしれない。

調査を女性の年代別の見ると，年代により応じる頻度の変化の傾向が異なることがわかる。シンプルにするために2000年と2022年を比較するとそれがより明瞭に見えてくる（図1）。2000年では「ない」人たちは年代とともに下がってゆくが，2022年では上がっていく。気乗りしない性交渉に応じる理由を問うた2000年も2012年も，「妻の務め」というのが全体で30％を占めている[4,5]。これは年代によって，高齢者ほど高いと推察される。例えば2000年では40代では25.7％であったが，70代では46.2％に上る。2022年では応じる理由が調査されていないが，こうした義務意識にも変化があるのではないだろうか。すなわち，かつては相当数いた，気乗りしない性交渉に応じるのも「妻の務め」とする人たちが減り，年代が上がるにつれ応じる人の率が上がるという現象を消し，気乗りしない性交渉には応じないという状態を可能にする何らかの理由が生じていると考えられる。それは何であろうか。40代では，「ない」人たちは2000年と2022年では一見増加したように見える数字だが，有意差がない。50代でも有意差はない。しかし，60代以降になると差が出てくる。つまり，結婚年月，人生の長さによる，断っても良いとする自信やパートナーへの信頼などであろう。その背後に社会の女性への理解の増大も推測できるが，今回の調査からはその面については言及できない。

2022年になると，高齢になるほど気乗りしない性交渉に応じることのない人が増えていく一方，70代までは「よくある」人たちが減らない。上にのべた「変化しにくい」群であろう。一方，80代になると，「よくある」人は消える。80代は2022年しか調査しておらず，数が少ないので，有意差を検定できないのが残念である。この項目はこの一年間に性交渉があった人達に問うているので，高齢になるほど性交渉の頻度は下がっている。高齢になっても継続している人たちが，なぜ継続しているのか，継続できているのかを考える時，貴重なヒントがあると考えられる。80代では「よくある」人はおらず，「ない」人は多く，「ない」人と「稀」にある人を合わせると，85.7％に上る。80代で性交がこの一年にあった人は13.3％である。それを多いとみるか少ないとみるかは立場によって異なるだろうが，今回の調査で見る限り，望まぬ性交に気乗りしないまま応じている，というのとは異なりそうである。逆に言えば，女性で，80代まで性的関係を保っている人は性的関係を楽しめる状況がある人達が多い，と言える。また70代までは，「よくある」人たちが減らないが，80代になるとなくなっているということは気乗りしないで，努力して応じている状況に80代で終止符を打つと考えられる。

2.「性的感情や欲求についてお互いに伝えたり話し合うことがありますか」に関して

「互いに伝えあう」は，男女で大きな差は見られない。しかし，「自分だけが伝える」のが男性に多く，「相手だけが伝える」のが女性に多いことは，従来の性規範の「性は男性がリードするもの」，「性のことを口にするのは慎みがない」等と合致すると言える。

男女ともに「伝えあわない」人たちが増加しているが，これをどう見るかである。筆者は最初，今回の調査がネットによるものであり，調査対象者が生のコミュニケーションが少ない人たちなのではないかと推測したが，2012年のネットによらない調査ですでに2000年より増加している。ネット調査という特質を差し引いても

「伝えあわない」人たちが増加していると見たほうが良いだろう。

そして問題は「伝えあわない」人たちが増加するだけではなく，男女差が大きくなっていることである。男性が「自分だけが伝える」としているのに女性には相手が伝えているとは受け取れず,「伝えあわない」と受け取られている可能性が大きい。

男性の伝え方が下手なのか，女性の受け取り方が下手なのかは不明であるが,「伝えあわない」人達が，全体で男性は56.9%であるが，女性では70.0%にのぼる。このずれは大きな意味を持つと思われる。伝えないのも問題であるが,「伝えた」つもりで「伝えた」と受け取られていないことは様々な問題を生じさせうる。性意識を問うた設問で，男性の「性はコミュニケーションである」という考え方を当てはまるとした人は男性全体では60.3%いたが，一方女性では38.6%である。また「性は楽しい」を当てはまるとしたのは男性全体では51.4%であったが，女性では15.4%であった。性の楽しさを共有できているとはいいがたい数字である。

なお，性的感情のコミュニケーションの土台は，性的以外の会話であろう。「二人の間での日常の会話」の多寡への問いでは，男女ともに,「多い」+「どちらかと言えば多い」は，女性59.7%，男性64.4%で会話が比較的多く男女差がない。日常会話が少ないわけではないのに，性的な事柄に関しては伝えあうのは女性では20.8%男性では23.3%である。性的な事柄は特殊な分野とされているようである。

性生活の支障になるものは何かへの答えに，2000年と2012年では男女ともに,「相手の仕事でゆとりがない」と「自分の仕事でゆとりがない」を合わせたものがトップであったが[3) 4)]，2022年には「夫婦間の問題」が一位を占め，女性では，24.7%，男性では25.7%に上っている。この「夫婦間の問題」の具体的な中身は把握できないが，2割以上の男女が感じる「夫婦間の問題」にはコミュニケーションの問題が大きく影響していると考えられる。

男性と女性では性に関する感覚が随分異なっていることは性意識を問う項目で見て取れる[8) 9)]。そもそも男性の方が性生活を重要視しており，単身者も含めた男性全体で,「重要」と,「どちらかと言えば重要」を合わせると82.0%に上りそれは女性の倍近くである。当然ながら，男性の満足度は女性より低く，女性は「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせて75.2%であるが，男性は47.8%である。この違いが，生物としての性欲等に由来するものなのか，これまでに培われた性意識や性生活の歴史によるものなのかはこの調査からは不明である。しかし，生物学的に性に対する熱意が異なるなら，基本が違っている男女がカップルとして性生活を持つわけであるから，すり合わせる努力が必要になろう。また，社会が植えつけた性意識やそれまでの性生活の歴史によるものなら，何が女性の性に対する意欲をそいだかを見極めることが必要となろう。そのすり合わせには性的なことも含めたコミュニケーションが必要であろうし，コミュニケーションが一方的な思い込みかもしれないとの反省が必要となろう。また，意欲をそいだものを明確にすることは，現在の関係改善にとって重要なだけではなく，今後の性教育にとっても重要である。

3.「配偶者や交際相手とどのような性的関係が望ましいですか」に関して

性的関係の前に,「配偶者との関係でどのよう

な交流を求めていますか」の項目を見ておこう。ここでは，様々な項目が入っており，その中には，「愛情を言葉や行動で示す」もある。そうした項目すべてで，男女間に差は見られない。では，性について問うた時どうなるのであろうか。男性の方が女性よりも「性交を伴う愛情関係」を求める人が多いがこれは，2022年調査では省かれた「あなたと配偶者の性的欲求は一致していますか？」等から予想できた[4)5)]。2000年も2012年もともに，40代男性の30－40％が「相手が弱すぎる」と答え，40代女性は40％弱が「相手が強すぎる」と述べているからである。男女差はありながら，3調査で，「性交渉を伴う愛情関係」を求める人たちは男女ともに低下しており，男女ともに，性交への欲求が低下していると言えよう。男性の「性交を伴う愛情関係」を求める人が減っても，女性も減っているため，その差は縮まらない。

さらに，現実に「性交が月一回以上」ある人と「性交を伴う愛情関係」を求める人の年代による変化をみると，男女差が大きく興味深い。2022年調査をみると，両項目の割合は，40代では男女ともに差がない。そして，女性の場合，40代を100％とすると，70代では両項目とも20～30％程度に減少するのに対し，男性の場合，70代では「性交が月1回以上」の人は40代の37.9％であるが，「性交渉を伴う愛情関係」を望む人は40代の65.7％である。

実際に性交渉そのものを行いたいのか，行える自分でありたいという願望なのか，行える関係でありたいのか。調査が新しくなるにつれ，「性交渉を伴う関係」を求める率が，40代より低下する率が小さくなるのはどのような意味を持つのであろうか。現実と願望との差が大きくなってきているわけで，アンチエイジングが叫ばれる時代になってきており，性的側面の活発さは，まさにアンチエイジングの象徴ともいえるからではないかと推察している。一方女性ではこうした傾向はみられない。こうしたことが，男性の性生活への満足度が女性より低いことと関係していると思われる。

結婚生活に「満足」と，「どちらかと言えば満足」を合わせると男女ともに7割以上である。しかし，性生活の満足度は女性では下がらないが男性では大幅に下がり5割を切る（表5）。男性は性生活を重要とみる人が多く，「性交渉を伴う関係」を求める人も多い。性的欲求が満たされないための不満も大きいと考えられる。しかし，気乗りのしない性交渉が「よく・ときどきある」のは男性1割に対して女性は3割弱である。男性は本人が意識しているかどうかは別として，気乗りしない性交渉を成立させる可能性があることを心すべきであろう。女性は性交への関心が低下傾向にあることにも留意が必要である。もちろん，少数とはいえ女性側が気乗りのしない性交渉を成立させている場合もある。男女ともにパートナーの性交への願望を汲んでコミュニケーションを図ることが「性の楽しみ」を共有する道であろう。

表5　結婚生活と性生活の満足度（全体）2022年　％

	満足	どちらかと言えば満足	どちらかと言えば不満	不満
	結婚生活に関して			
女性	27.5	46.9	13.4	12.2
男性	31.9	46.6	13.6	7.9
	性生活に関して			
女性	41.6	33.6	15.5	9.3
男性	12	35.8	38.1	14.1

結　論

気乗りしない性交渉に応じる人は，男性ではもともと少ないためか20年間で変化がなく，女性は気乗りしない性交渉に応じることがない人の率は上がった。しかし，性的感情や欲求に関するコミュニケーションを取る人の率は上がってはいない。日常的な会話が少ないわけではなく，相手への愛情があるとしながら，性的欲求や感情に関するコミュニケーションは下がった。また，気乗りしない性交渉が良くある人たちは２０年間で変化が見られなかった。望ましい性的関係では，「性交を伴う関係」を望む割合の男女差は縮まらないまま，「性交渉を伴う関係」を望む人は男女ともに有意に減少し，性交への関心が希薄になる傾向がみられた

参考文献

1）金子和子, 渡辺景子：セックスレス　今一性治療の現場から　日本性科学会雑誌 vol30 No.1・2　95–98　2012
2）令和2年国勢調査：人口等基本集計，7-2「男女，年齢（5歳階級），配偶関係，世帯の種類別世帯人員—全国，都道府県，市区町村」.
3）日本性科学会セクシュアリティ研究会：中高年単身者セクシュアリティ調査特集号．日本性科学会雑誌23，suppl，2005.
4）日本性科学会セクシュアリティ研究会：2012年・中高年セクシュアリティ調査特集号．日本性科学会雑誌vol32，suppl．2014.
5）日本性科学会セクシュアリティ研究会編著：カラダと気持ち　ミドル・シニア版．三五館，東京，2002.
6）荒木乳根子，石田雅巳，大川玲子他：中高年夫婦のセクシュアリティ　特にセックスレスについて — 2000年調査と2012年調査の比較から —，日本性科学会雑誌31（1）：27–36，2013.
7）日本性科学会セクシュアリティ研究会編著：セックスレス時代の中高年性白書．株式会社harunosora，神奈川，2016.
8）日本性科学会セクシュアリティ研究会：中高年のセクシュアリティ — 男女のパートナーシップの現状について —．日本性研究会議会報12（1）：2–18，2000.
9）荒木乳根子　性的欲求の性差に関連する諸要因　日本性科学雑誌　vol 19 No.1 22–30 2001